

【研究概要】

ESDは比較的長時間を要し侵襲的な要素も加わる事から深い鎮静下での施行が求められる。しかし術後に覚醒不良に陥り、転倒やせん妄を来たす症例がある。2025年6月より超短時間作用型ベンゾジアゼピン系としてレミマゾラムが保険承認され、新たな鎮静方法として期待されている。そこで我々は食道・胃・大腸 ESD を施行する患者に対して従来の鎮静方法であるデクスマデトミジン+ミダゾラムとレミマゾラム群とで鎮静の有効性を検討することとした。